

被ばく線量予測システムを用いた
研修の補助作業

日本原子力研究開発機構

本発注仕様書は、表題で示した日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センター（以下、「機構」）の発注作業について記述するものである。本仕様書において、Ⅰ. は契約にかかわる一般事項を定め、Ⅱ. は本作業の目的および内容を定めるものである。

I. 契約にかかわる一般事項

1. 作業の実施形態

本作業を、機構発注により受注者が実施し、以下の 3. に定める品目を納入品として機構に納めるものとする。

2. 納期

令和 7 年 2 月 28 日（金）

3. 提出書類および納入品目

	書類名	提出時期	部数	備考
1	実施要領書	契約後速やかに	1 部	工程表、体制表を含む
2	打ち合わせ議事録	打ち合わせ後、1 週間以内	1 部	
3	作業報告書、作成した研修資料	納期まで	2 部	
4	上記提出書類等の納入品すべてを収めた電子媒体	納期まで	1 式	

4. 納入場所及び納入条件

(1) 納入場所

機構原子力緊急時支援・研修センター
専門研修グループ

(2) 納入条件

持込渡し、又は郵送等。郵送等で納入する場合は、送付先を別途指示する。

5. 検収条件

前項の品目が納入され、以下 II. の実施項目と内容を満足していることを発注者が確認することをもって合格とする。

6. 検査員及び監督員

(1) 検査員

一般検査 財務部管財課長

(2) 監督員

原子力緊急時支援・研修センター 専門研修グループ員

7. 契約不適合責任

検収後、1年以内に契約不適合が発見された場合は、受注者の責において無償で速やかに必要な措置を講じるものとする。

8. 貸与品

本作業の実施にあたり、機構から受注者へ以下のものを無償で貸与する。

貸与品	数量
<u>DRINC/DPRO-GUI システム</u>	<u>1式</u>
<u>DRINC/DPRO-GUI システムの取扱説明書</u>	<u>1式</u>
<u>DRINC/DPRO-GUI システムを用いた研修資料</u>	<u>1式</u>

受注者はこれら貸与品を本作業の実施以外の目的には使用せず、また、本作業終了時にはただちに機構に返却するものとする。

9. 協議事項

- (1) 受注者と機構とは必要に応じて業の進め方に関する打ち合わせを行い、都度、機構の了承を得た上で、作業を進めることとする。
- (2) 本仕様に記載されていない事項および記載事項の内容について疑義が生じた場合には、機構担当者と協議し、その決定に従うものとする。受注者が疑義解消を怠ることにより生じた遅延等の損害は、一切受注者の負担とする。
- (3) 機構への報告、機構との打ち合わせ、協議等については、受注者が議事録を作成し、機構の了解を得るものとする。

10. 守秘事項

受注者は本作業に関する情報を機構以外の第三者に漏らしてはならない。

11. グリーン購入法の推進

- (1) 本契約において、グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）に適用する環境物品（事務用品、OA 機器等）が発生する場合は、これを採用するものとする。
- (2) 本仕様に定める提出図書（納入印刷物）については、グリーン購入法の基本方針に定める「紙類」の基準を満たしたものであること。

12. その他特記事項

本件は、内閣府からの委託事業「令和6年度原子力施設等防災対策等委託費（原子力災害対応人材育成等）事業」の一環として実施するものである。

II. 作業の目的および内容

1. はじめに

1.1. 作業目的

機構では、オフサイトで防災業務に従事する作業員（以下、「防災業務関係者」）の放射線防護に関する技術情報の整備の検討に資するため、オフサイトにおける複数のモニタリングポスト（以下、「MP」）の空間線量率のデータを入力値として、防災業務関係者の活動情報等を基に被ばく線量を評価する DRINC/DPRO-GUI を開発した。本作業では、内閣府からの委託事業「令和 6 年度原子力施設等防災対策等委託費（原子力災害対応人材育成等）事業」の一環として、DRINC/DPRO-GUI 用いた研修のサポートを行うものである。

1.2. 作業項目

本作業では、以下の項目を実施する。

- (1) DRINC/DPRO-GUI を用いた研修の補助
- (2) 作業報告書等の作成

2. 作業内容

2.1. DRINC/DPRO-GUI を用いた研修の補助

令和 6 年度原子力施設等防災対策等委託費（原子力災害対応人材育成等）事業における地方自治体職員向けの研修において DRINC/DPRO-GUI を用いた研修の補助を行う。具体的には下記の作業を行う。

(1) 避難経路などのサイトデータの作成

DRINC/DPRO-GUI で使用する避難経路などのサイトデータのうち、未整備となっている東通サイトのデータについて整備する。

また、システム内に既に整備済みの女川サイト、大飯サイトもしくは高浜サイト、伊方サイト、川内サイトの避難経路などサイトデータについて、最新の地域避難計画のデータと比較を行い更新があれば修正を行う。この避難経路データ整備に利用した元情報（公開情報・その他取得情報）は納品すること。

(2) DRINC/DPRO-GUI の概要及び操作方法の解説と操作補助及び講義演習資料の作成補助

機構では、実務人材研修（バスによる住民避難等）において、バスによる住民避難等における計画策定担当者及び実務担当者向けの研修を実施している。

本作業では、本研修への支援として、リモート研修 1 回（現状案：茨城県ひたちなか市原子力緊急時支援・研修センター。開催時期 7 月上旬頃予定）、現地研修 5 回（現状案：東通地域、女川地域、大飯・高浜地域、伊方地域、川内地域。開催時期 8 月～12 月頃予定）の講師及び補助者の派遣を依頼するものである。

リモート研修では、研修資料等を機構から提供するので、それを利用しての DRINC/DPRO-GUI の概要説明（30 分）と操作方法（操作体験）の解説（30 分）を行う講師（1 名又は 2 名）の派遣を行う。

また、現地研修では、現地 5 か所に人員を派遣し、同様に DRINC/DPRO-GUI の概要説明（30 分）と操作方法（操作体験）の解説（30 分）に対する講師及び補助者の合計 2 名の派遣を行う。ただし、その際、使用する講義資料のうち、操作体験の資料は、現地の避難経路の情報（データ及び地図情報）に差し替えたものを利用する。差し替は、（1）の作業で整備した現地の避難経路の情報を利用するものとし、機構と相談の上、研修資料の改訂を行うこと。

2.2. 作業報告書等の作成

実施した作業について記述した作業報告書を作成する。なお、報告書の作成にあたっては、次の点に留意する。

- 平易かつ簡潔な表現を用い、図表等を活用する。
- グラフおよび表は Microsoft Word, Excel, Power Point で編集可能なソフトで作成する。
- 取扱説明書は緊急時運用を想定し、手順毎の PC の操作画面を表示し、操作手順、入力コマンド等を明確に記載すること。
- 計算結果については、計算の方法や途中経過、使用したパラメータ値が分かるよう、必要に応じて付録として図表や説明をつける。
- オリジナリティ、著作権にかかわる部分は引用文献を明記する。
- 用語、略号は統一し、一般的でない部分は初出のところで説明する。
- 単位は、SI 単位を原則とする。
- 時刻は日本時間（JST）で表記する。

以上